

病院外心停止に対する包括的治療体制の構築に関する研究

1. 研究の対象

本邦で発生した院外心停止例のうち、救急隊が蘇生処置を行い、本研究登録医療施設に搬送された症例を本研究の対象としております。

2. 研究目的・方法

目的：院外心停止例の搬送先病院の治療体制、搬送後の集中治療内容を救急隊による病院搬送前の患者データと結合させて検討し、院外心停止例の社会復帰率向上に寄与する適切な治療ストラテジーの検討を目的としております。

方法：院外心停止症例の受け入れ後、症例登録を行い、「院内登録記録票」の項目に従い、必要事項を入力します。事務局がプレホスピタルデータ(全国ウツタインデータ)と院内登録データを連結させ、病院前情報と病院到着後の治療と神経学的予後について、調査します。これらのデータを国内のデータと合わせて解析します。

研究期間：2012年5月28日から2028年5月31日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

研究に試料は用いず、収集する情報はすべて個人を特定しえない形での病院および患者さんの情報のみです。情報に含まれる項目の詳細は下記の通りです。

1-1)測定項目

① 基本情報登録

<病院情報>都道府県、病床数(集中治療室(ICU)病床数、スタッフ数(医師、看護師)等、病院の規模に関する項目

<患者情報>性別、年齢等

②ウツタイン(病院前救護)記録

救命救急士乗車、医師同乗、心肺停止の目撃、発生場所、居合わせた人(バイスタンダー)による心肺蘇生、市民による除細動、救急隊時間経過(覚知時刻、現場到着時刻、患者接触時刻、隊員による心肺蘇生開始時刻、病院収容時刻)、救急隊到着時の状態、救急隊到着時の最初の心電図波形、救急隊の処置内容、病院収容前の心拍再開等

② 病院到着後記録

病院収容時刻、病院収容後の最初の心電図波形、中枢温度、身長・体重、病院収容後処置(心肺蘇生、体外補助循環、心血管カテーテル検査・ステント留置、低体温療法)、使用薬剤、患者背景、血液データ、CPAに至った原因、病院搬入後の状態、発症1ヵ月後生存、発症90日後生存、発症1ヵ月後の脳機能、発症90日後の脳機能等

④病院到着から退院（死亡退院も含む）／転院または入院 30 日までの入院医療費（賛同が得られた一部の施設のみ記録）等

4. 研究の実施体制

本研究は、日本救急医学会が主導している研究の一つとして、研究責任者を京都大学医学研究科 社会健康医学系専攻 予防医療学分野（環境安全保健機構保健科学センター）教授 石見 拓として、本研究に参加を表明している救急病院からのデータを集めて解析して、病院の外で心停止を起こしてしまった患者さんの救急搬送と治療について多方面から研究し、患者さんが少しでもよい経過を得られるような包括的な治療体制が構築できるようにするための研究です。当院からのデータも個人情報を削除した状態でコンピュータ上に入力するために、他施設の研究者もその情報を閲覧することができます。

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者

京都大学医学研究科 社会健康医学系専攻 予防医療学分野
教授 石見 拓

住所：京都市左京区吉田近衛町

電話：075-753-4400

横浜市立大学附属市民総合医療センターにおける研究責任者

高度救命救急センター 教授

竹内 一郎

連絡先：045-261-5656（代表）